２０１８年１１月１６日
ちょぼちょぼ市民連合：田中一郎

2019 年夏 参議院選挙勝利へ向けて

「市民と野党の共闘」が直面する課題

１． 政権交代の５つの基本フレーム
（１）政治改革の主体形成
（３）改革政策遂行の知恵と覚悟（頑固と妥協、肉を斬らせて骨を斬る）
（３）骨太な政権構想（⇒ マニフェスト）
（４）持続性（少なくとも５年、願わくば 10 年）
（５）広告代理店業務（ＰＲ、説得、プロパガンダ、誘導、票読み等）

２． 政治改革で重要な次の４つ
（１）選挙で常に勝つこと（ゲートボールで言えば「第１ゲート通過」）
（２）長期安定政権による確実な政治改革
（３）霞が関の官僚組織を使いこなす
（４）政府外部の人脈形成（マンパワー結集、政策形成における市民参加など）

３． 政権交代の主力＝立憲民主党の責任の重大性
（１）地方組織づくりを急げ＝社民・自由との合併を前提に早急に組織づくり・支部立ち上げ
（２）各地方で直ちに支持者拡大の活動を開始＝それを組織化（労組に頼るな！）
（３）「市民と野党の共闘」組織を各都道府県に設置、その中央代表者会議を東京に置く
（４）「市民と野党の共闘」に協力する各野党へ万全の礼を尽くす（立共同盟＝WINWIN 同盟）
（５）「市民と野党の共闘」の中核綱領を早急に決める（柱＝暴走安部政治をアンワインド）
（６）全ての選挙で自民党との相乗り選挙は絶対にしないで「対決色」を強く打ち出す
（７）国民民主党との関係の基本は「当面は棲み分け」、参議院選１人区は「一本化」

４． 政権交代と政治改革のスケジュールを共有化
政治を変えなければ世の中は変わらない＝日本の「転落」は止まらない（破滅へ向かっている）
「政治が変わるぞ」「何かが変わるぞ」というワクワク感や雰囲気づくり
（１）政権構想・マニフェストの策定（さしあたりどんな政権を創るのか：漸進的でいい）
柱は３つ＝脱原発、経済政策（企業ではなく国民生活優先）、日本国憲法を活かす
安倍政権時代の悪法の一括スクラップ法（戦争法, 特定秘密保護法, 共謀・盗聴, カジノ, 労働法, TPP･日欧 EPA, 農地法, 種子法, ＰＦＩ法（水道他）, 入管難民法, 漁業法, 消費税増税他）
（２）各選挙区候補者の絞り込み（事前世論調査が望ましい）⇒ その人を中心に政治活動開始
徹底したドブ板（講演会はほどほどに）、脱原発で小泉純一郎氏に協力を求める
（３）「市民と野党の共闘」で「次の内閣」をつくり定期的に共同記者会見
安倍政権の振る舞いを批判、私たちならこうする、をＰＲ
（４）公開政策討論会の開催（新政権でどんなことをしていくかの語り合いなど：ポジ＆楽）
（５）街宣、電話かけ、チラシ配布、新聞などで「市民と野党の共闘」組織への参加呼びかけ

５．マニフェストの事例
（１）生活者・国民本位の経済政策（企業優先・市場原理主義から国民生活優先へ）
（２）脱原発とエネルギー政策の抜本転換
（３）日本国憲法を活かした平和イニシアティブ外交・安全保障
（４）利権・土建政治の排除とクリーンで公開された政治
（５）新しい民主主義と国民参加（例：公職選挙法改正、オンブズマン制度、住民投票など）
（６）第二次司法改革（例：裁判員制度を行政法裁判へ、検察庁民主化、国民審査実効性 UP 等）
（７）安倍・自公政治時代の悪政の一掃（上記「一括スクラップ法」）

６．マニフェストでの経済政策の具体例（漸進的でいい：多くは時間をかけてゆっくりと）
（１）労働：最低賃金、公契約、失業対策、非正規縮小・解消へ（原則正規化）、公共サービス
（２）保育：公認保育所大増設、保育士大幅賃上げ、保育園規制適正化
（３）介護：特別養護老人ホーム大増設、介護士大幅賃上げ、介護組織規制の適正化
（４）教育：大学自治と研究予算拡充、学生支援（授業料引下・減免、奨学金拡充、学生寮等）
（５）地域経済振興：農林水産業、地場産業、地元商店街、地域支援・移住促進
（６）再生可能エネルギー振興と電力抜本改革
（７）老朽化する地域インフラの計画的選択的刷新と地場業者の育成
（８）公共交通の再生と都市計画法・建築基準法の見直し
（９）巨大ＰＪやイベント、ダムや高規格道路などの建設、巨大ハコモノなどは中止
（１０）公正な税制実現による財源の確保と社会保障制度拡充見直し検討をスタート
（１１）第二次地方分権改革スタート（分散型ネットワーク社会へ向けて）

７．政権交代後のスケジュールも立てておいて「市民と野党の共闘」で共有化
（１）安倍悪法一括スクラップ法案の早期可決成立
（２）脱原発法制化＝第１陣（再稼働不可能）、第２陣、第３陣くらいに区分け
（第１陣：①規制委・規制庁解体、②再稼働 50ｋｍ圏全自治体合意、③使用済み核燃料・高レベル放射性廃液の安全対策、④立地自治体対策スタート、⑤福島原発事故後対応見直し）
（３）全てを一気にやろうとせず、優先順位を決めて少しずつ
（４）財源確保を常に意識、事業仕分け再開で問題は仕分人人選と仕分対象＝巨悪を潰せ
（５）霞が関官僚をうまく使う＝制度改革も並行して進める、外部人材積極投入
（６）御用組合「連合」は解体へ＝働く者のための活力ある労働組合再組織化へ
（当面は、全国組織ではなく、業態別連合組織や単位労組とのつながりを重視）
（７）黒田バズーガ金融政策のアンワインドは容易ではない ＆ 公的年金と日銀の保有株式は時限爆弾（日銀の保有国債よりも、こちらの巨額の内外株式の方がよほど大問題で危険）

８．最後に
（１）2019 参議院選挙は衆参同日選の可能性もあり、憲法改悪国民投票の可能性もあり
（２）カギは「市民と野党の共闘」の「団結力」「大人の対応」「65%満足の原則」など
（３）ホンモノの改革を始めた時の「反撃の風圧」の強さは覚悟しておくこと（半端ではない）
（４）立憲民主党は「戦国時代の大名」達がどのようにイクサをしていたか学べ！（命がけ）